

# J-クレジットを活用した サステナビリティへの取り組みについて

---

株式会社山陰合同銀行  
地域振興部  
部長 井上 亮  
2023年3月13日

## 自己紹介

名 前：**井上 亮** (いのうえ りょう)

出 身：島根県

略 歴：1996年4月入行  
2012年7月阪神北支店次長  
2016年7月本店営業部次長  
2019年6月西宮支店長  
2022年7月地域振興部長 (現職)



# 山陰合同銀行のプロフィール

## 経営理念

地域の夢、お客様の夢をかなえる創造的なベストバンク

本店	島根県松江市
資本金	207億円
預金等	5兆2,946億円
貸出金	4兆1,111億円
有価証券	1兆6,417億円
自己資本比率	11.17%
拠点数 (国内 / 海外)	117 / 3
従業員数	1,901名

(2022年9月30日現在)

全国で唯一2県（鳥取県・島根県）の  
指定金融機関を担う地域金融機関、

通称：『ごうぎん』です。



## 地域振興部のご紹介

- ✓ 地域振興部では、地元地方公共団体、民間事業者と連携して**地域開発支援**や**産業振興支援**、また**地域経済や産業の分析結果を踏まえた各種提言**や**行政施策の実行支援**等を行っています

### 地域振興グループ

- 各種地域開発プロジェクトへの参画  
(中心市街地活性化、PPP/PFI、PFS/SIBなど)
  - 産官学金連携
  - 農林業支援 (スマート農業、6次産業化など)
  - SDGs普及・啓発・コンサルティング (※)
- (※) コンサルティングセクションとの連携

など



### 産業調査グループ

- 地域のマクロ経済分析
- 産業・業界分析
- 経済波及効果分析
- 各種分析に基づく情報提供・提言
- 受託調査

など

# Contents

1 ごうぎんについて

2 当行のJ-クレジット販売仲介の取り組みについて

3 J-クレジット販売者との連携と活用事例について

4 最後に



# Contents

1 ごうぎんについて

2 当行のJ-クレジット販売仲介の取り組みについて

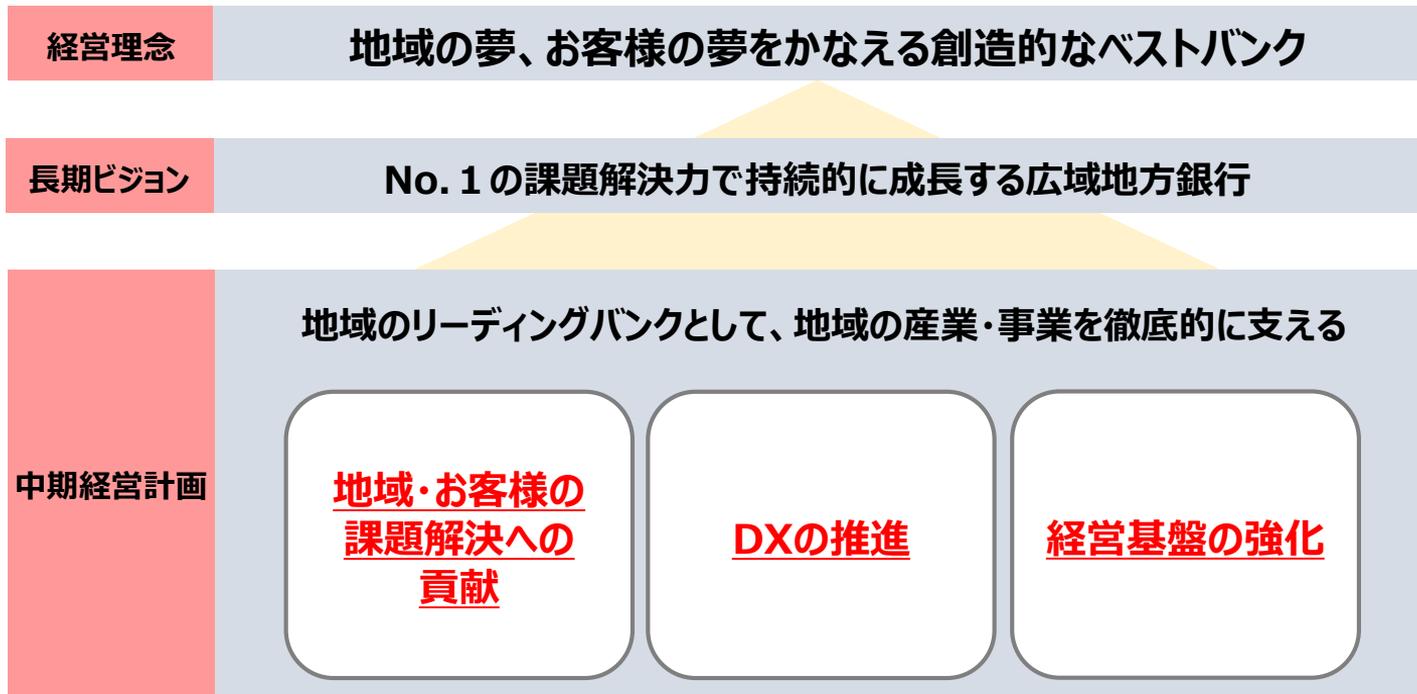
3 J-クレジット販売者との連携と活用事例について

4 最後に



## 中期経営計画（2021年度～2023年度）

- ✓ 経営理念の実現に向け、地域・お客様の課題解決を通じた成長を目指す「**長期ビジョン**」と、ビジネスモデルの変革を加速していく「**中期経営計画**」を2021年4月から実践しています



## サステナビリティ宣言（2019年度）

山陰合同銀行グループは、国連の定めた持続可能な開発目標（SDGs）の趣旨に賛同し、**地域の課題解決**に取り組むことで、**持続可能な地域社会の実現**を目指します

■ 重点取組事項 ■

- 地域経済の持続的な成長
- 豊かな地域社会の実現
- 持続可能な地域環境の実現
- 従業員の満足度向上
- 健全で透明性の高い経営体制の確立



# ESGの具体的な取り組み（1）

## Environment 環境

TCFD提言への賛同  TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES	2021年4月
サステナビリティ宣言を踏まえた投融資方針の公表	2021年6月
経団連生物多様性宣言への賛同	2022年7月

## Social 地域・社会

The Valuable 500加盟 	2021年4月
調達活動に関する方針策定（グリーン購入）	2022年3月

## Governance ガバナンス

取締役構成の変更 取締役総数 13名 ⇒ 12名 社外取締役 5名 ⇒ 6名 女性取締役 1名 ⇒ 2名	2021年6月
取締役構成の変更 女性取締役 2名 ⇒ 3名	2022年6月

## ■ 地銀初となるサステナビリティレポート発刊（2021.11）

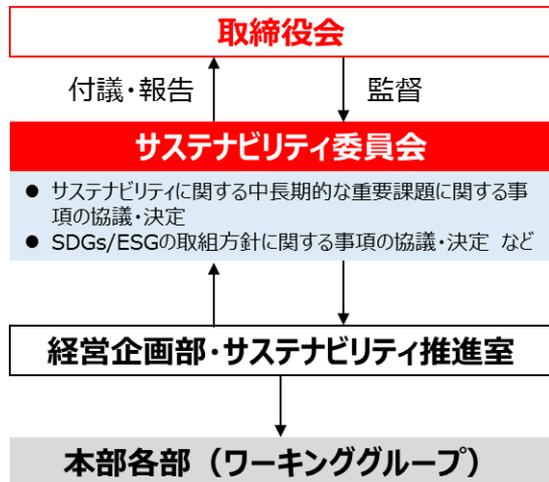


（2021年版）

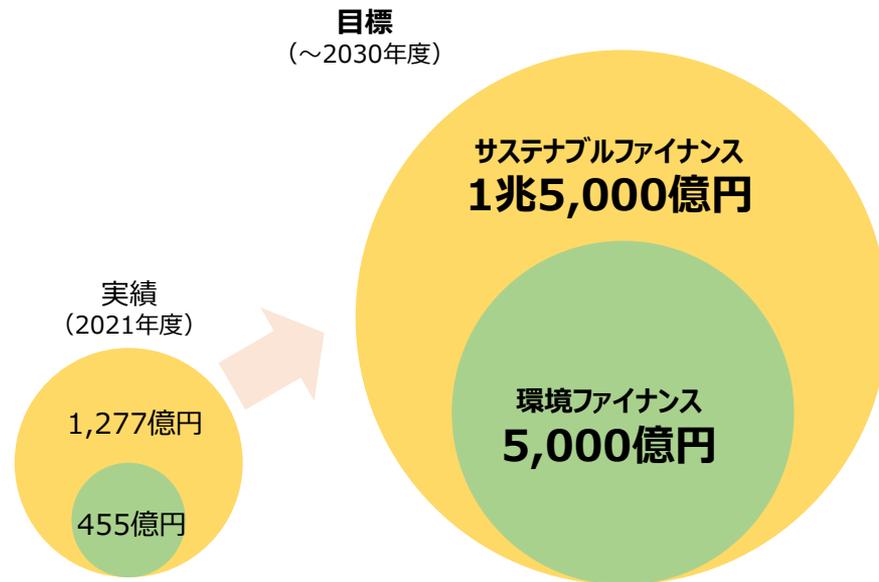
（2022年版）

## ESGの具体的な取り組み（2）

### ■ サステナビリティ委員会（委員長：頭取）



### ■ サステナブルファイナンス目標設定



### ■ カーボンニュートラル目標設定

2030年度

温室効果ガス排出量の**ネットゼロ**(Scope 1, 2)  
 ※2021年度CO<sub>2</sub>削減率**35%** (2013年比)

2050年度

サプライチェーンを含む温室効果ガス排出量の**ネットゼロ**(Scope 1, 2, 3)

# Contents

1 ごうぎんについて

2 当行のJ-クレジット販売仲介の取り組みについて

3 J-クレジット販売者との連携と活用事例について

4 最後に



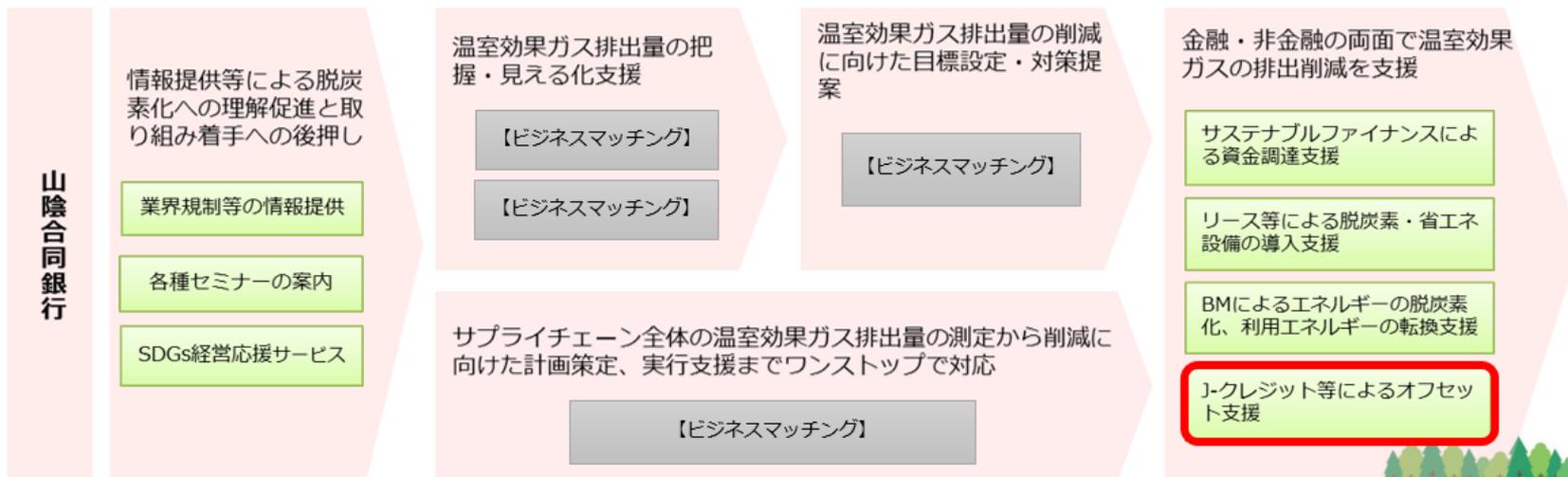
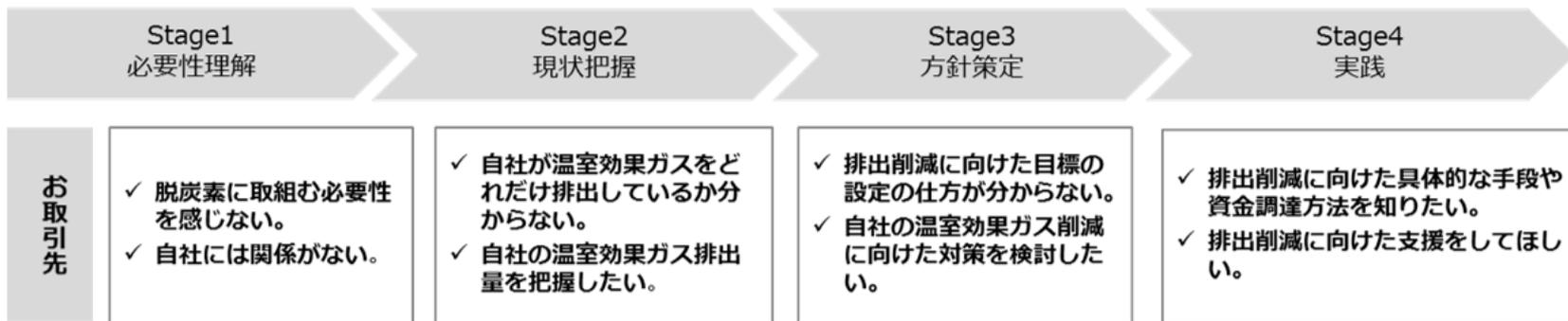
# 地域脱炭素ロードマップのイメージ



「J-クレジットを活用した削減・吸収の後押し」も重点対策に含まれています。

出所：「地域脱炭素ロードマップ（国・地方脱炭素実現会議）」より抜粋

# お取引先のステータスに対する当行の脱炭素支援体制



## J-クレジットの取組開始（問題意識・経緯）

### 経緯

2009年9月に、鳥取県よりオフセット・クレジット制度（当時J-VER）の案内を受けました。  
当時、鳥取県は全国で2番目という早さでJ-VERを認証・取得されましたが、制度の認知が追いついていなかったこともあり、制度普及と販売促進の相談を受け協働について検討を開始しました。

### 問題意識

当行は2006年より、弊行役職員による「ごうぎん希望の森（森林保全活動）」や「山陰ネットワーク会議（環境活動を実施する団体のネットワーク）」の活動を行うなかで、森林保全への資金循環を促す取り組みが必要であるという課題に直面しており、J-VER制度の有効な活用に課題解決の糸口を見出しました。

### アウトプット

継続的に協働できる仕組みを検討するなかで「鳥取県J-VER地域コーディネーター」（当時の名称）という制度が創設されました。（当行は第1号認定）



ごうぎん希望の森

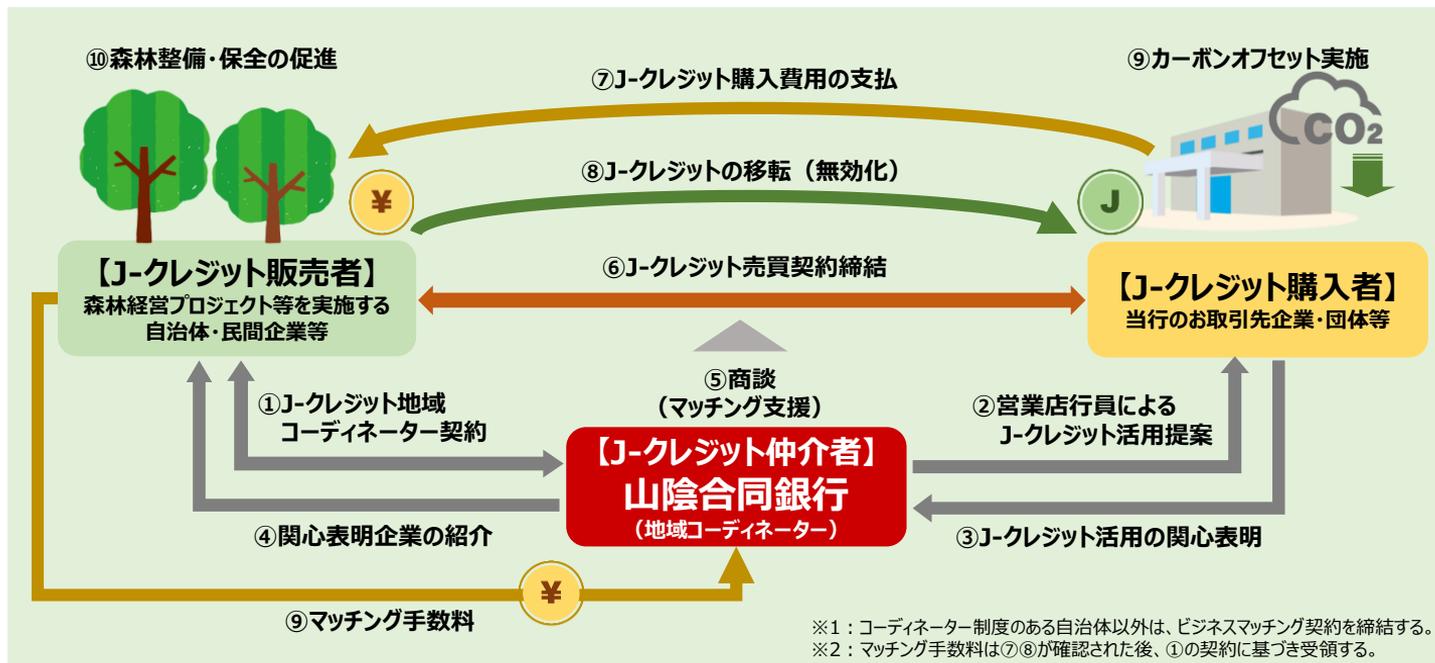


（事務局：弊行）



## J-クレジット地域コーディネーター制度について

- J-クレジット地域コーディネーター制度とは、カーボン・オフセットに取り組む事業者・団体等に対し、J-クレジットを活用したカーボン・オフセットの提案や、J-クレジット販売者とのマッチング支援を行うスキームです
- 制度創設にあたっては、制度が持続的かつ面的な広がりを見せるものとなるよう、販売者、購入者、仲介者それぞれが取り組み意義を見出せる仕組みとなるよう工夫しました



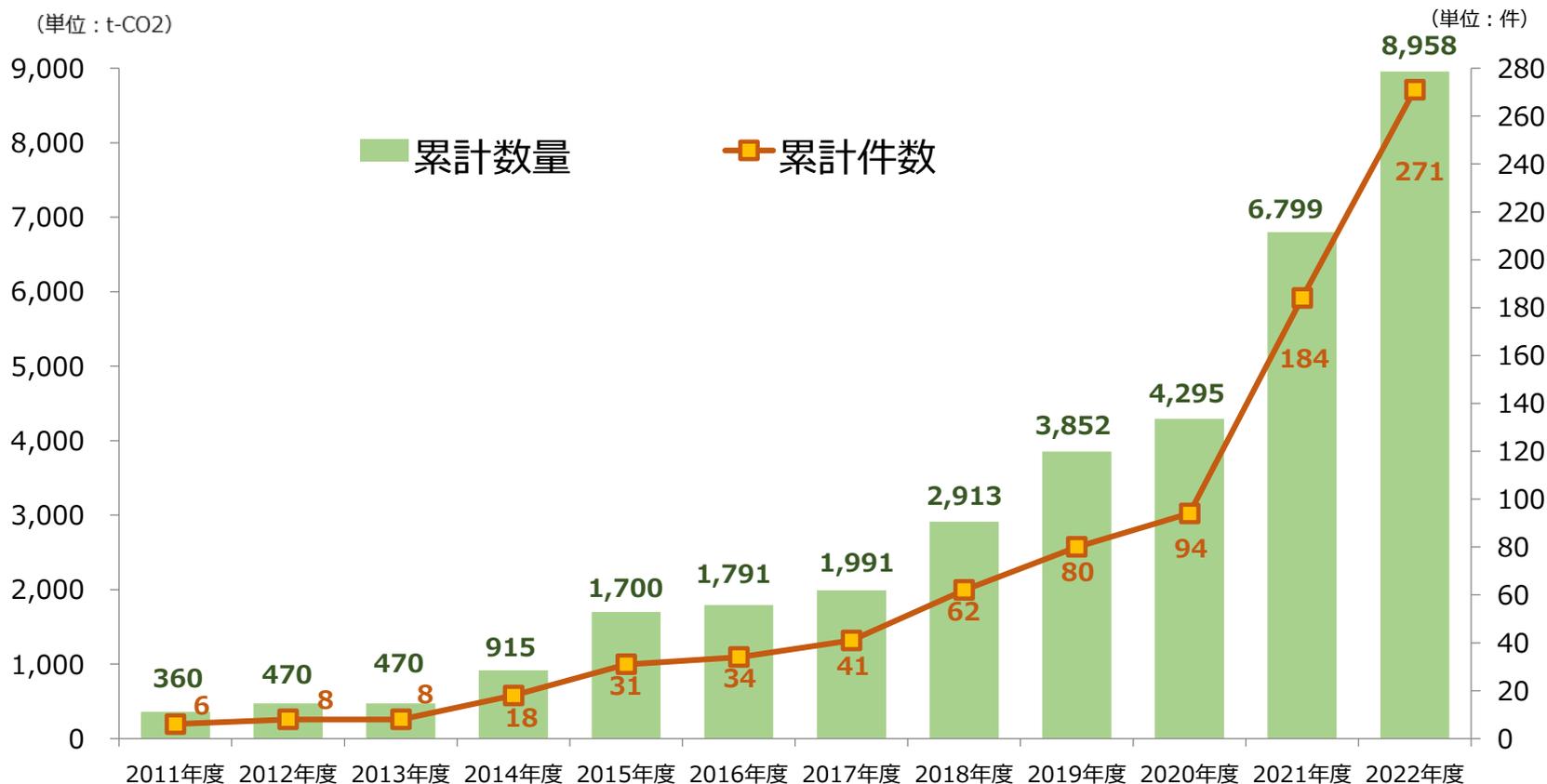
令和元年度 地方創生に資する  
金融機関等の特徴的な取組事例

## J-クレジット販売仲介支援先

- 現在では、鳥取県に加え、鳥取県日南町や兵庫県養父市も「J-クレジット地域コーディネーター制度」を導入し、カーボン・オフセットの取り組みを推進中です
- その他の販売者とは、当行との「ビジネスマッチング契約」を締結し、販売仲介活動を実施しています

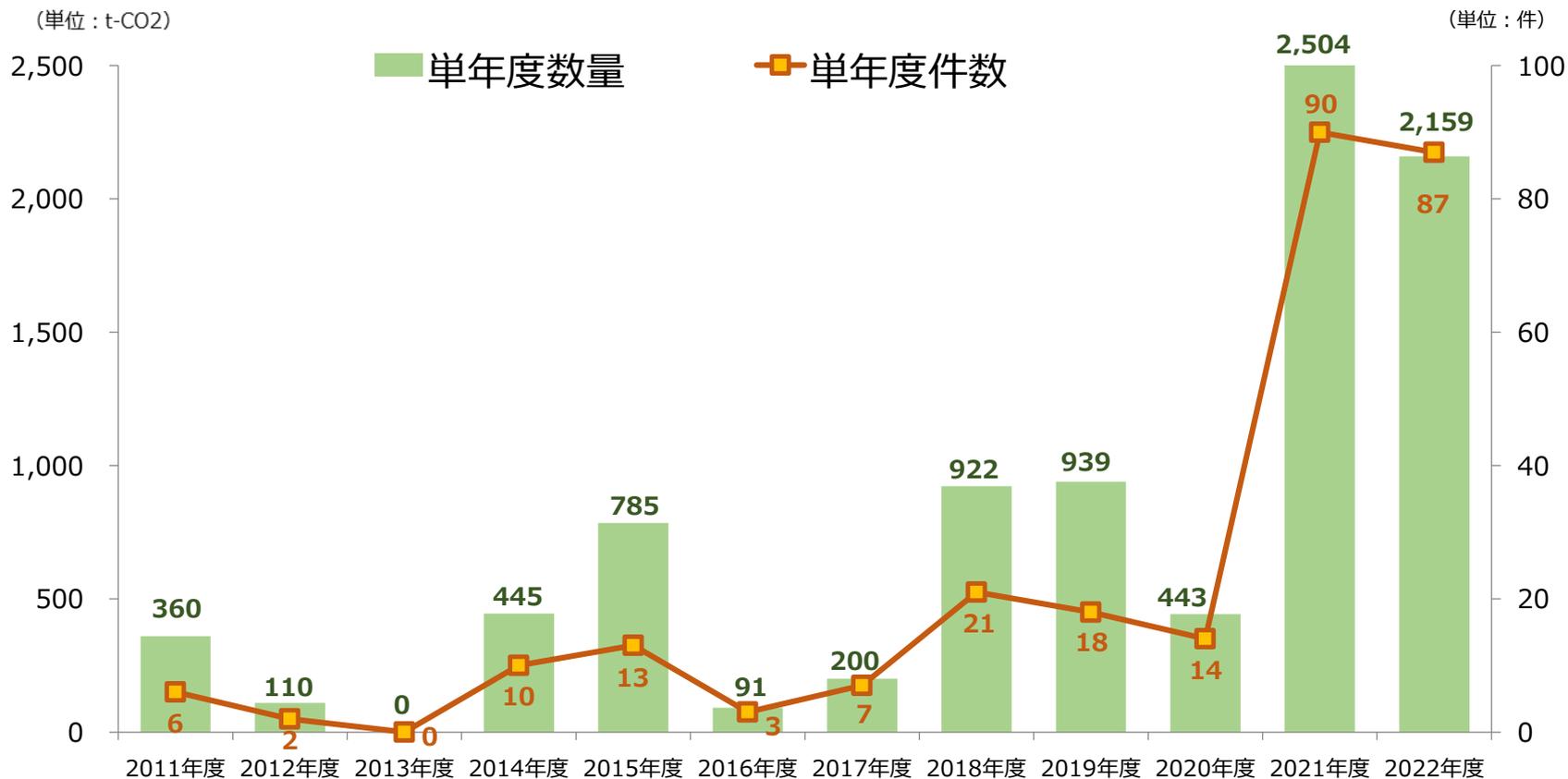
地域	販売者	発生由来	販売代金の活用方法等
島根県内	(株)田部	森林吸収	社有林の間伐をはじめとした森林整備に活用されます。
〃	須山木材(株)	森林吸収	森林経営計画に則した適切な森林管理、環境保全活動に活用されます。
〃	飯南町	森林吸収	町が行う植栽、間伐等の森林育成活動や環境保全活動に活用されます。
〃	出雲市	省エネ導入	市の森林再生のために活用されます。
鳥取県内	鳥取県	森林吸収	県が行う県有林の保全活動に活用されます。 鳥取県は県有林 J-クレジットの購入企業と『とつとりの森「カーボン・オフセット」パートナー協定』を締結し、県有林以外の鳥取県内の森林 J-クレジット購入し、カーボン・オフセットに取り組む企業を「とつとりの森を守る優良企業(※)」として認定しています。
〃	鳥取県造林公社	森林吸収	公社が行う県有林の保全活動に活用されます。
〃	日南町	森林吸収	町が行う植栽、間伐等の森林育成活動や森林教育活動に活用されます。
〃	日南町森林組合	森林吸収	組合が行う植栽、間伐等の森林育成活動や環境保全活動に活用されます。
〃	鳥取県中部森林組合	森林吸収	組合が行う植栽、間伐等の森林育成活動や環境保全活動に活用されます。
兵庫県内	養父市	森林吸収	市が行う植栽、間伐等の森林育成活動や環境保全活動に活用されます。

# J-クレジットの販売仲介活動の実績（累計）



※2022年度実績は2023年2月末日実績

# J-クレジットの販売仲介活動の実績（単年度）



※2022年度実績は2023年2月末日実績

# Contents

1 ごうぎんについて

2 当行のJ-クレジット販売仲介の取り組みについて

3 J-クレジット販売者との連携と活用事例について

4 最後に



# 販売者と連携した購入者サポート①

- 「**売買契約調印式**」を開催してPR！  
 当行も地元メディアへのプレスリリース等を通じて、  
 購入者のパブリシティのサポートも実施しています
- 販売者もWEBサイトやSNSへの掲載によって、  
 積極的に情報発信を実施されています



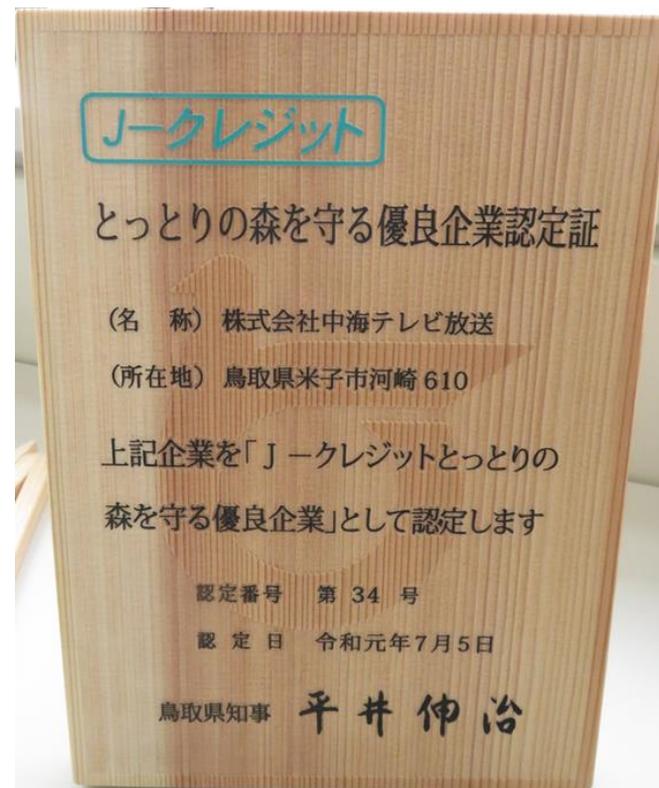
出所：日南町Facebookより抜粋



出所：鳥取県HPより抜粋

## 販売者と連携した購入者サポート②

- 鳥取県では、鳥取県内のJ-クレジット（官民間わず）を購入した企業に対して、**鳥取県知事名での優良企業認定証を贈呈する制度『とっとりの森を守る優良企業認定制度』**を追加的に創設されました
- これにより、**鳥取県以外の販売者のJ-クレジットの販売促進**に貢献されています



# クレジットカードポイント交換制度「SDGsコース」の創設

- J-クレジット販売者と連携し、当行が発行する法人クレジットカードのご利用により貯まったポイントを、環境や地域貢献のために活用（J-クレジットへの交換等）いただく仕組みを創設しました

<p><b>環境コース</b></p>	<p><b>J-クレジット への交換</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鳥取県日南町（樹木新植による森林保護への支援）</li> <li>●出雲の森プロジェクト（須山木材材）</li> <li>●兵庫県養父市（自然保全・再生、環境対策への再投資）</li> <li>●たたらの里プロジェクト（㈱田部、㈱たなべたたらの里）</li> <li>●島根県出雲市（太陽光発電システム設置による地域の環境保全）</li> </ul>
<p><b>地域スポーツ 応援コース</b></p>	<p>スポーツチームへの寄付</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●島根スサノオマジック（バスケットボールB1リーグ）</li> <li>●ガイナレ鳥取（サッカーJ3リーグ）</li> <li>●サンフレッチェ広島（サッカーJ1リーグ）</li> <li>●ヴィクトリーナ姫路（バレーボールVリーグDivision1）</li> </ul>

（2022年9月時点）



山陰合同銀行は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています  
 各種コースのご案内から交換先をお選びいただき、  
 当行ホームページの「SDGsポイント交換」ページからお申込みください。

## 建設業の事例 ～工事などで発生する温室効果ガスを実質「なかった」ことに～

### ■ 取り組む事業者にとってのメリット

- 公共工事の場合、成績の評価につながります  
※地公体により取扱いは異なります
- P Rが可能です

#### <PR例>

〇〇工事の建設機械から排出される温室効果ガスをカーボン・オフセットし、温室効果ガスを実質排出していない工事を行っています！

### ■ 取り組みに必要なこと

- 使用した燃料量や電力量などの把握
- 排出した温室効果ガスの簡易算定

### <事例：CO<sub>2</sub>実質排出ゼロのオフセット工事！>

- 鳥取市の(株)武晃建設では、建設工事や建設用機械の使用で発生する温室効果ガスの一部をJ-クレジットを活用してカーボン・オフセットすることで、環境負荷を低減する「カーボン・オフセット工事」を実施しておられます。



## 小売業・製造業の事例 ～消費者と共に取り組むカーボン・オフセット～

### ■ 取り組む事業者にとってのメリット

- 複雑な計算が不要で、すぐに取り組めます。
- 環境に関心のある**消費者の開拓**につながります。
- P Rが可能です。

#### < P R 例 >

あなたのお買い物で、1商品につき1円が町の森林支援に役立てられますよ！

### ■ 取り組みに必要なこと

- 商品、製品パッケージへの印字やシールの貼付
- 排出した温室効果ガスの簡易算定（任意）

### < 事例：道の駅のお買い物で1品1円をオフセット！ >

- 道の駅「にちなん日野川の郷」は、運営から生じる温室効果ガスを日南町有林J-クレジットを利用してカーボン・オフセットする「全国初のCO2排出ゼロの道の駅」です。

【CO<sub>2</sub>の発生】



道の駅の運営から生じる電力使用等に伴うCO<sub>2</sub>排出量（137t-CO<sub>2</sub>）



【CO<sub>2</sub>の相殺】



日南町における間伐促進によるCO<sub>2</sub>吸収量の増大（137t-CO<sub>2</sub>）

- 「全ての商品に1品1円のクレジットを付与した寄附型オフセット商品」を販売し、消費者が道の駅での買い物を通して町の森林保全活動に貢献出来る仕組みを構築（お買い物＝森林支援）しています。

寄附型オフセット



道の駅で消費者が寄附型オフセット商品（1品1円）を購入することによりカーボン・オフセット（27t-CO<sub>2</sub>）  
※H29年実績

## 継続的なカーボン・オフセット取り組み事例 ～継続はブランディングなり～

### ■ 取り組む事業者にとってのメリット

- J-クレジットの購入（カーボン・オフセット）は、継続的にお取り組みいただくことで、自社の商品やサービスに新たな付加価値（ブランド化）をもたらすことが可能となります。
- 温室効果ガス削減や森林保全に貢献する商品・サービスとして販売を促進したり、環境に優しい商品・サービスとして、環境意識の高い消費者にアピールすることが可能となります。

#### <PR例>

企業のイメージアップに向けて、何事も継続的な取り組みが大事だし、それが企業ブランディングにも繋がるよね！

### ■ 取り組みに必要なこと

- 継続的なカーボン・オフセットのお取り組み

#### <事例：年間電気契約数×杉1本分のJ-クレジット>

- 米子市の(株)中海テレビ放送では、「chukai電力」の契約数1契約につき、日南町の杉の木1本分のCO<sub>2</sub>吸収量相当のJ-クレジットを購入し、持続可能な地域社会の実現に貢献する活動を継続的に実施しております。



日南町との調印式

鳥取県日南町の杉の木1本が年間に吸収する温室効果ガスに相当する日南町有林J-クレジットを購入。日南町は植林や森林整備を行い循環型社会の形成を目指しています。（累計購入量：146t-co2）

出所：(株)中海テレビ放送HPより一部抜粋し作成

## 【ご参考】近年のJ-クレジット関連の受賞実績

受賞名称等	受賞テーマ及び概要
<p><b>令和元年度地方創生に資する金融機関等の特徴的な取組事例</b> 【内閣府】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国で34事例選定</li> </ul>	<p><b>J-クレジットを活用したSDGsへの貢献 ～林業への資金循環創出支援～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元地公体との「J-クレジット地域コーディネーター制度」創設の取り組み</li> </ul>
<p><b>第1回地方創生SDGs金融表彰</b> 【内閣府】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国で5事例選定</li> <li>・複数事例での選定は当行のみ</li> </ul>	<p><b>「知る」から「パートナーシップ」までリトルで利取る 鳥取県版SDGsパッケージ支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県及び鳥取銀行と共同申請</li> </ul>
	<p><b>SDGs・脱炭素で地域事業者のサステナブル経営を後押しするSDGs未来都市の挑戦</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県日南町と共同申請</li> </ul>
<p><b>21世紀金融行動原則 2021年度最優良取組事例 特別賞（運営委員長賞）</b>【環境省】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国で5事例選定</li> <li>・中国地方の金融機関では初受賞</li> </ul>	<p><b>J-クレジットを活用した取引先の環境経営の実践と企業価値向上支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・J-クレジット制度の浸透と仲介支援によるカーボン・オフセットの推進</li> </ul>
<p><b>森林×脱炭素チャレンジ2022 優秀賞（林野庁長官賞）</b>【林野庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国で10事例選定</li> <li>・金融機関の受賞は当行初</li> </ul>	<p><b>2006年から継続している当行森林保全活動の取り組み</b></p>

# Contents

1 ごうぎんについて

2 当行のJ-クレジット販売仲介の取り組みについて

3 J-クレジット販売者との連携について

4 最後に



## J-クレジットの地産地消の推進

- 取引先にJ-クレジットの活用を提案する際は、可能な限り地域で創出されたJ-クレジットをご提案することで、J-クレジットの「**地産地消**」を推進し、地域の環境保全等を通じた持続可能な社会の実現に貢献することを支援しています



J-クレジット購入者

J-クレジット販売者

- 地元産のJ-クレジットでカーボン・オフセットすることで**地元貢献のPR**に！
- 地元自治体や企業間で、J-クレジットを介した**新しい「つながり」**が生まれることも！
- 地元自治体の森林整備や地元企業の環境整備等を支援することで、**地域経済の活性化**に！
- 地元の環境保全が進むと、今よりも安心して暮らせる、**自然豊かな地域**に！

出所：J-クレジット制度事務局HPより当行作成

## J-クレジットを通じてサステナビリティを考えるきっかけに

- 地域のサステナビリティ（SDGs）を考えるうえで、大きなリスクの一つに「気候変動」が挙げられます
- このリスクへの取組の第一歩として、様々な業界・業種が一緒になって「J-クレジット」の活用に取り組むことによって、重層的かつ多面的に地域の持続可能性を高めることができます



## 最後に：今後の新たな事業展開について

- 今後は、J-クレジットの販売仲介支援だけでなく、**取引先等と連携した「J-クレジット創出」に関する取り組み**も検討していく方針です
- また、「**グリーン電力証書**」や「**非化石証書**」といった**環境価値**について積極的に情報収集を行うことで、それらを組み込んだ新たな脱炭素支援スキームの構築にも取り組みます
- 国の進める「GXリーグ基本構想」や「カーボンクレジット市場」の動向についても注視し、必要に応じて、様々なステークホルダーと連携しながら、地域における脱炭素・カーボンニュートラルに向けた取り組みを牽引していきます



出所：経済産業省HPより

# ご清聴ありがとうございました

## 【お問い合わせ先】

株式会社山陰合同銀行

地域振興部 地域振興グループ

担当：中尾 TEL：0852-55-1873 E-mail：chishin@gogin.co.jp

